

おおま

No. 73
岬の光

平成24年5月1日発行

議会だより

開館式家固め神事



奥戸交流館

3月定例議会 主な内容

○平成24年度 大間町一般会計歳入歳出予算内訳 P 2

○平成24年 第1回定例会 P 3~4

○一般質問 P 5~6

○要望活動 P 7

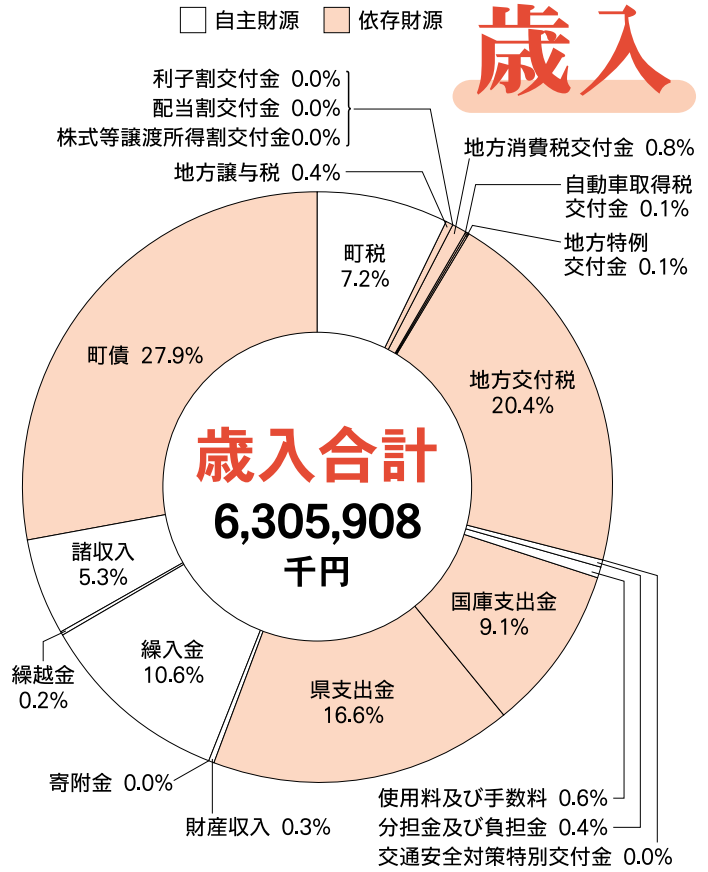
○原発視察報告・編集後記 P 8

平成24年度

大間町一般会計歳入歳出予算内訳

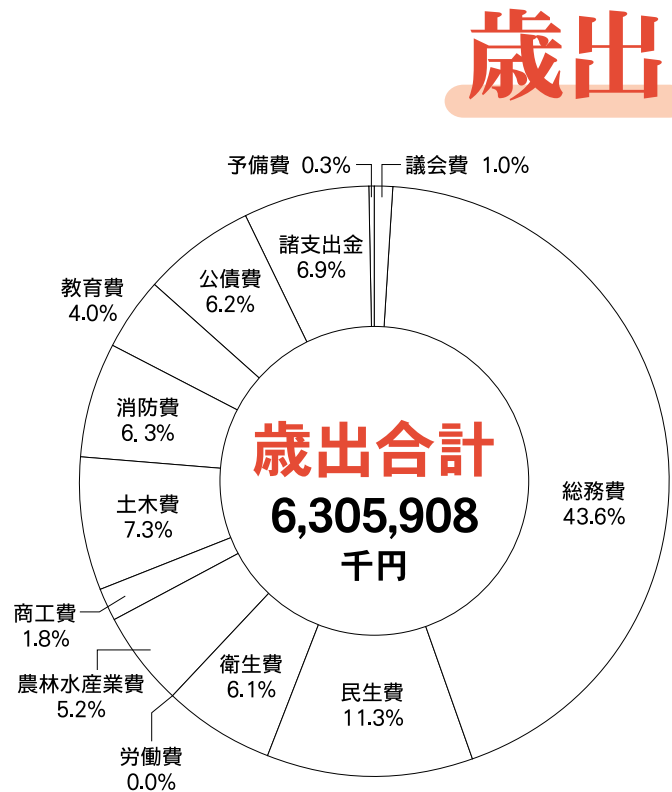
(単位：千円、%)

科 目	予算額	比率
1 町 税	453,824	7.2
2 地 方 譲 与 税	25,242	0.4
3 利 子 割 交 付 金	1,296	0.0
4 配 当 割 交 付 金	352	0.0
5 株 式 等 譲 渡 所 得 割 交 付 金	105	0.0
6 地 方 消 費 税 交 付 金	47,957	0.8
7 自 動 車 取 得 税 交 付 金	6,116	0.1
8 地 方 特 例 交 付 金	4,756	0.1
9 地 方 交 付 税	1,285,183	20.4
10 交 通 安 全 対 策 特 別 交 付 金	252	0.0
11 分 担 金 及 び 負 担 金	25,381	0.4
12 使 用 料 及 び 手 数 料	38,357	0.6
13 国 庫 支 出 金	570,933	9.1
14 県 支 出 金	1,049,483	16.6
15 財 産 収 入	17,392	0.3
16 寄 附 金	1,630	0.0
17 繰 入 金	671,183	10.6
18 繰 越 金	10,000	0.2
19 諸 収 入	335,716	5.3
20 町 債	1,760,750	27.9
歳 入 合 計	6,305,908	100.0



(単位：千円、%)

科 目	予算額	比率
1 議 会 費	65,696	1.0
2 総 務 費	2,743,824	43.6
3 民 生 費	712,159	11.3
4 衛 生 費	383,129	6.1
5 労 働 費	2,960	0.0
6 農 林 水 産 業 費	326,289	5.2
7 商 工 費	111,010	1.8
8 土 木 費	461,196	7.3
9 消 防 費	399,197	6.3
10 教 育 費	253,057	4.0
11 公 債 費	393,021	6.2
12 諸 支 出 金	434,370	6.9
13 予 備 費	20,000	0.3
歳 出 合 計	6,305,908	100.0



平成24年 第1回定例会

会期 3月7日～3月16日

平成24年度当初予算

一般会計

歳入歳出とも63億590万8千円となり、前年度と比較し2億7690万5千円、4.6%の増となる。

歳出の主なるもの

総務費

- 公共用施設維持運営基金積立金4173万3千円。
- 水産振興基金積立金4375万円。
- 新造船建設工事費20億3千万円。
- 下北広域負担金5045万3千円。
- 大間・函館航路維持事業費補助金3千万円。
- 原子力発電所視察研修旅費1168万3千円。

民生費

- 下北広域負担金1946万円。
- 後期高齢者医療療養給付費負担金4668万4千円。
- 社会福祉協議会補助金2624万円。
- 障害福祉サービス費等給付費7255万4千円。
- 国保繰出金、介護繰出金、後期高齢者医療繰出金合わせて1億7346万円。
- 大間保育園運営費6330万2千円。
- 子ども手当1億1367万5千円。
- 下北広域負担金7435万9千円。
- 下北医療センター負担金1565万5千円。

衛生費

- 下北広域負担金7435万9千円。
- 下北医療センター負担金1565万5千円。

農林水産業費

- 大間町クリーンセンター委託料2058万円。
- 清掃総務費で下北広域負担金1億3369万8千円。

土木費

- 水産振興事業費補助金6992万5千円。
- 磯根資源増殖事業補助金1千万円。
- 材木漁港整備事業設計委託料1千万円。
- 地域水産物供給基盤整備事業負担金3千万円。
- 大間平2号線道路改良測量調査設計委託料1349万3千円。
- 大間奥戸線道路改良工事2億2439万3千円。
- 港湾改修費2千万円。
- 下水道事業特別会計繰出金9947万1千円。

消防費

- 下北広域負担金3億5593万4千円。
- 消防団事務委託料2023万9千円。

教育費

- 奥戸小消火設備等改修工事1029万円。
- 奥戸分館解体工事745万5千円。
- 農業研修センター解体及び駐車場整備工事2052万円。

公債費

- 元金3億1123万2千円、利子8178万9千円の当該年度支払見込額を計上。

諸支出金

- 大間病院会計負担金2億4037万円、同会計貸付金1億9100万円を計上。

国民健康保険特別会計

歳入歳出それぞれ10億976万9千円であり、前年度比1837万3千円、1.9%の増となる。

海峽保養センター事業等特別会計

歳入歳出それぞれ1億6825万6千円となり、前年度比4053万6千円、19.4%の減となる。

後期高齢者医療特別会計

歳入歳出それぞれ4401万6千円となり、前年度比8万9千円、0.2%の減となる。

介護保険特別会計

歳入歳出それぞれ4億4851万9千円となり、前年度比214万8千円、0.5%の減となる。

下水道事業 特別会計

歳入歳出それぞれ2億5994万8千円となり、前年度比2847万9千円、12・3%の増となる。

○浄化センター管理費
光熱水費で755万2千円。

○維持管理委託料1591万7千円。

○管渠布設工事1億2800万円。

○公債費で元金4539万8千円、利子2651万4千円の当該年度償還見込額を計上。

水道事業会計

○収益的収入及び支出の収入、1億5243万2千円。支出1億3918万9千円。

○資本的収入及び支出の収入、847万円。支出で導・配水管布設替工事費等443

6万8千円、企業債償還金4653万8千円、予備費で500万円。資本的収入

が資本的支出に対して不足する額8743万6千円は、内部留保資金で補填する。

平成23年度補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ1億1304万5千円を減額し、予算総額48億5780万1千円とした。

○子ども手当国庫負担金2274万9千円の減額。

○材木漁港補助金3784万9千円の減額。

○町債では下手浜漁港整備債440万円、小奥戸漁港整備債470万円、材木漁港整備債1750万円をそれぞれ減額計上。

○新造船工務監理委託料3000万円を減額。

○子ども手当2098万5千円を減額。

○材木漁港整備工事7658万2千円を減額。

○地域水産物供給基盤整備事業負担金1012万7千円を減額。

○奥戸交流館建築工事546万円の減額。

○予備費では財源調整し7579万9千円を追加計上。

国民健康保険 特別会計

歳入歳出それぞれ374万9千円を追加し、予算総額10億2450万円とした。

海峽保養センター 事業等特別会計

歳入の組替補正で、保養センターで燃料費180万2千円、養老センターで燃料費26万2千円、修繕料に21万円を計上した。

後期高齢者医療 特別会計

歳入歳出それぞれ39万4千円を減額し、予算総額4419万4千円とした。

介護保険特別会計

歳入歳出それぞれ47万6千円を追加し、予算総額4億5561万8千円とした。

下水道事業特別会計

歳入歳出それぞれ10万1千円を追加し、予算総額2億1561万8千円とした。

下水道事業会計

収益的収入及び支出の補正で14万3千円を追加し、収益的支出の総額を1億2700万5千円とした。

専決処分

除雪経費の大幅な増額により900万円の専決。

陳情

○TPPへの参加反対の意見書の提出を求める陳情書。

採択

○公的年金の改悪に反対する意見書の提出を求める陳情書。

採択

○「こころの健康を守り推進する基本法」(仮称)の制定を求める陳情書。

固定資産
評価審査委員会
委員の選任

○大間字狼丁21番地

竹内 力氏
昭和10年10月20日生

○奥戸字ニツ石102番地2

中嶋正学氏
昭和36年4月3日生

両氏とも、全議員の賛成をもって再任。

第1回臨時議会
(平成24年1月31日)
工事請負契約の締結

1. 船舶建造工事
2. 一般競争入札
3. 26億400万円
4. 内海造船株式会社
広島県尾道市
(代表) 森 弘行

賛成6、反対3
原案可決

一般質問



議員 正根 秋雄

質問

1 施政方針に防災対策の構築とあり、ハザードマップの作成と海拔標識の設置を計画しているが、その他の計画はないのか。

町長答弁

現在ハザードマップを製作しており、4月には全戸配布する。海拔標識設置のため、町内72地点において測量しており、新年度これを設置する。

その他の計画について、町内会に自主防災組織を設置するため、

協議を行い実現に向けてつとめる。

再質問

高齢化、一人暮らし世帯の避難態勢、人の手を借りなければ避難できない人のデータ及び、資料の提出が出来ますか。

災害時の防災品の備蓄状況は。

又、漁船が沖に出ている場合の告知方法と、組合との協議は。

町長答弁

データは取っており、資料として提出します。避難態勢に

については、社会福祉協議会および民生員児童委員協議会との情報の共有と連携強化につとめる。

災害時の物資協定は5社、資機材の支援協定は3社です。

非常食、災害備蓄品の補充、更新は随時行なっていくたい。

漁協とは公式に話し合いはしていないが、警報が発令された場合の連絡体制を整えたいと考えている。

又、津波の場合、無線局が危険なため利用できないことを考え、局を高台に移動して欲しいとの要望を載っている。

防災無線が現在アナログ対応でデジタル化への変更が必要と考えている。平成27年から29年の計画で整備することとしているが、災害時の初期対策の重要性から、早期の整備が

必要と認識している。

質問

2 来年運行のフェリーについて、新造船を利用した地域活性化の具体策は。

町長答弁

新造船の魅力をPRし、新造船効果を最大限活かすため、航路継続計画の各事業実施に向け、運行事業者、関係団体と協議を進める。

観光協会や観光事業に携わる企業、団体等に連携を強化し、大間

ならではの観光のあり方を検討し、実施できるように努める。

再質問

新造船が就航することで本間に経済効果が得られるのか。

町の税金を投入するのだから、乗船料金が最低半額になるのでは、と期待する町民もあると聞くが。

町長答弁

経済効果としては、観光が一番大きいと考える。

割引に関しては、通院割引について約束を戴いている。

町民全体の割引は回答がない。

時期が来れば割引率を発表出来ると思います。

再質問

岸壁工事を含め、大きな金額を投入する事業のわりには具体策が示されていないが。

町長答弁

経過等、今後の交渉等は広報を利用し、町民に周知して行きたい。

只今、指摘された事項については検討を重ね、実施に向け努力いたします。



一般質問



野崎 信行 議員

質問

1 石炭火力発電誘致について

大間原発がいつやるかわからないので、石炭火力発電を誘致したらどうか。

2 大間崎に大型駐車場を作ってもらいたい

大間崎には大型バス4台しか駐車できないので、大型駐車場を作り、バス50台駐車できるようにすれば、観光客が増えると思うがどうか。

3 大間崎の池を整備したらどうか

大間崎の池を観光推進のため、整備したら良いと思う。

4 大間町に海水浴場を建設したほうがよい

大間町に海水浴場がないのは、青森県で大間町だけである。場所は大間町に海水浴場がよいと思う。

5 大間町民武道館を建設したらどうか

大間町は剣道、柔道が青森県一ですから、町民武道館を作ったら

どうか。

6 函館と姉妹町提携をしてはどうか

この間の地震災害のとき、大間町が完全に津波、地震で孤立してしまい、カップヌードルもなくなってしまう。そこでやはり函館と姉妹町締結を結ばなければならぬと思う。

7 JRと組んでマグロクーポンを作ったらどうか

東京から大間に交通機関のJRとくんで、クーポン券を作り、観光客を呼べるようにしたらどうか。

8 大間町の未来の顔づくりについて

大間町は今から20年前、電発のおかげで、大間町が発展してきました。この経緯を踏まえ、千年の町づくりを

したらどうか。

9 電源開発にPRセンターを作るように要請してほしい

他の原発はみんなPR館をもっているが、大間電源開発だけはないが。

10 大間原発はいつやるか分からないので海流発電をやったらどうか

大間弁天島周辺の海流を計ったら、世界で一番海流の流れがあるということなので、世界の海流発電をやったらどうか。

11 障害者センターの建設について

大間町に障害者の人たちもたくさんいるので障害者センターを建てたほうがよい。

12 大間町の津波シミュレーションを

作ってもらいたい

大間電発前での津波シミュレーションを作ってもらいたい。

町長答弁

1 火力発電所の誘致の考えはない。

2 ピーク時での駐車場整備は非常に難しいが、調査しながらスペースの配置、交通整理員の配備等検討する。

3 地権者の協議が必要であるから今後の課題としたい。

4 現時点で設置する考えはない。

5 学校施設の開放、有効利用等に対応する。

6 姉妹町の締結については相手もあることなので回答できない。

い。

7 今現在行っている。

8 第5次大間町総合計画を策定している。

9 電源開発が国道沿いのサイト内に計画している。

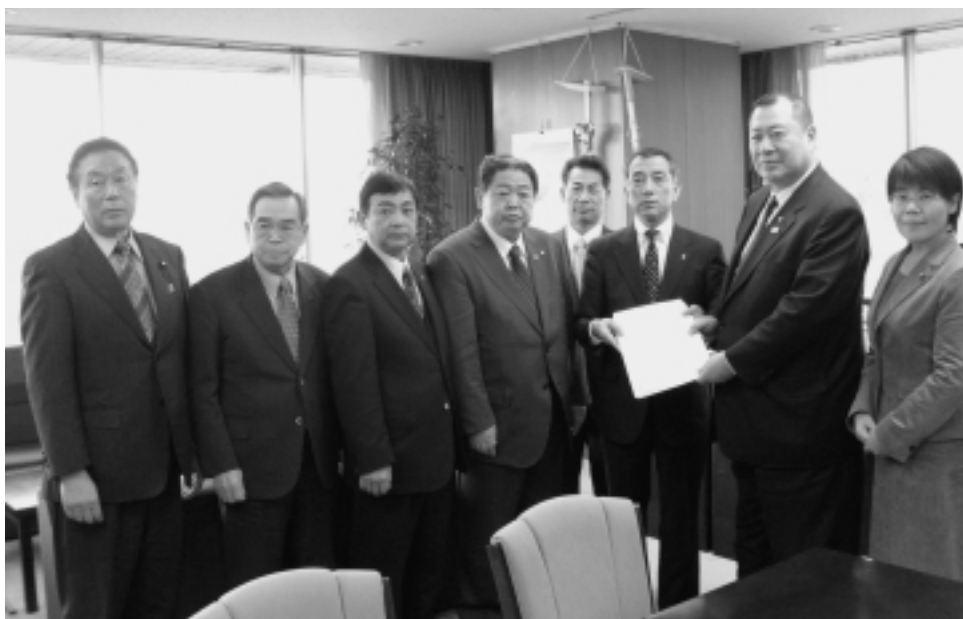
10 大間の良好な漁場であり困難と認識している。

11 法に基づいてサービスの提供と支援を実施している。

12 青森県が階上から大間町までのシミュレーションを策定中なのでそれができ次第活用していきたい。

防災避難道路の整備促進を国に要望

議長 石戸 秀 雄



平成24年2月1日(水)2日(木)の2日間「防災避難道路として、下北半島縦貫道路の整備促進」について、国等へ要望活動を行なった。

尚、陳情行動にあたっては、中野渡詔子衆議院議員・田名部定男、菊池憲太郎県議会議員に特にご尽力いただきました。

大間・佐井・風間浦の3町村と町村議会で組織する大間原発三ヶ町村協議会(金澤大間町長他参加者14名)では2月1日、国土交通省と経済産業省に対し、原子力防災避難道路として、下北半島縦

貫道路の整備促進と、大間町から早急に事業を着手するよう要望した。

国土交通省の津島恭一政務官は「地域の実情はよく把握している、前向きに対応したい」と、又、経済産業省の牧野整修副大臣は「できるだけ協力させていきたい」と二人から前向きな発言をいただいた。

尚、この日は、発達した低気圧の影響で、県内は大雪となり横浜町の国道279号線で8キロ以上にわたり、100台超の車が立ち往生した。この事で、更に、避難道路の重要性を感

じさせられました。又、次の日(2日)には、内閣府(中塚一宏担当副大臣対応)と民主党本部(松井孝治筆頭副幹事長対応)及び

尚、三ヶ町村協議会では、今後も継続して要望活動をしていくことを確認した。

県選出国会議員にも同様の要望を行なった。

大間原発三ヶ町村協議会とは

大間原子力発電所計画に伴う諸問題に関し、大間町・風間浦村及び佐井村は、立地地域、隣接地域として各々の立場を相互に尊重し、共通の課題を調査検討するとともに、各町村が密接な連絡、協議を行い相互の充分な意思の疎通をはかる事とを目的に、「三ヶ町村と発電所との共存共栄を調査検討、原子力発電所の安全性及び防災、風評被害について調査検討、その他、発電所計画に関する必要な事項」を協議するため、平成元年10月30日大間町役場に事務局を置き設置された。

「組織」

町村長、正副議長、議会特別委員会委員長及び副委員長、副町村長、町村の原発担当、地域振興担当、財政担当及び議会事務局長。総勢22名。

会長は大間町長、副会長は風間浦村長及び佐井村長とする。

「経費」

協議会に係る経費については、電源開発株式会社が負担する。

原発視察報告

大間町原子力発電所対策特別委員会

委員長 正根 秋雄



昨年3月11日に発生した東日本大震災による福島第一原発事故は、これまでの原発の地震や津波対策に疑問を抱かせるとともに、福島事故を踏まえたさらなる安全対策について、議論や検証が行われている。

大間原発計画の工事休止が1年近くなる2月29日と3月1日に、近い将来に巨大地震と大津波の発生が心配されている浜岡原発と、大震災で実際に津波被害を受けた東海第二原発を視察し、どのような安全対策が検討実施されているのか、それは住民が安心できる十分な対策なのかなど、

さまざまな確認や質問を行った。

浜岡原発では、地震対策のほか、全体で一十億円程の事業費を見込んでいる防潮壁の設置や建物扉の防水化など、津波による敷地や建物への浸水防止を目的にした対策や防潮壁工事現場などを間近から確認した。

東海第二原発では、津波による被害と発生後の対応について説明を受け、発電機車や消防ポンプ車の高台への配備など原発を冷やす機能の確保を目的とした対策を確認した。

各議員から防潮壁の構造や地元住民への情報提供などについて熱

心な質問が数多く出され、大間原発で計画さ



浜岡原子力発電所で防潮壁の説明を受ける御一行

れている安全強化対策とはどのようなものか、実際に眼で見て具体的に理解するうえで大変参考となり、大間原発でも十分な安全対策が今後とられていくことを議会として確認していくことの必要性

を、一同深く認識した。
また、茨城県と福島県の津波被災地域の深刻な状況を移動の途中で目にする機会があった。
被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧と復興をお祈り申し上げます。

編集後記

今年は、例年にないくらいの厳冬を過ぎられ、皆様方も心身共に大変な思いをなされたかと思えます。
今日は、四月五日未だに雪がパラついています。本当にいつになったら春がくるのでしょうか。
国会は、消費税、年金問題等で国民にとっては何ひとつ喜ばしい事がない。
少しの年金で生活なされている高齢者の方々は、頭をかか

竹内(記)

委員長

加藤 正喜

副委員長

千代谷 誠

委員

竹内 弘

宮野 昭一

小林 和美

野崎 信行